

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372700488		
法人名	有限会社ライフネット		
事業所名	グループホームももたろう(北ユニット)		
所在地	岡山県倉敷市船穂町船穂880-2		
自己評価作成日	令和元年5月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3372700488-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3372700488-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	令和元年6月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の思いや生活習慣を大切にし、ご家族や医療機関との報告、連絡、相談をこまめに行うことで、心穏やかに過ごしていただけるような体制も整っている。利用者様の楽しみや季節を感じていただけるようなレクリエーション企画も毎月行っている。職員に対しては毎月の職員会議後に、介護の知識や技術、避難訓練など介護現場に必要な研修を行っている。ひと月に2回までの「希望休制度」を取り入れており、他職員に負担をかけず気兼ねなく休めることができる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

落ち着いた雰囲気の中、相性の良い者同士でテレビを観たり、会話をしたりするなど、ゆったりとした時間が流れている。家族の来訪に合わせて外出する機会が増えてきており、生活意欲の向上に繋がっている。また、各ユニット毎で外食や外出支援に取り組んでおり、お互いに助け合いながら、利用者の希望や要望に沿えられるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月1回の全体会議の時に参加職員全員で社訓を読むことで理念の共有実践をしている	玄関と相談室に理念を掲示すると共に、全体会議後の研修の中で周知している。新人職員はオリエンテーションの中で説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域活動に参加する事はあまり行っていない	地域のお祭りで神輿が来たり、中学生の職場見学や高校生の実習を受入れたりするなど、地域との交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高校生の実習を受け入れている。スタッフが見守り、意思疎通を一緒に行い、不安なく過ごしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	様々な職種の方からの意見や情報交換を行い、サービス向上につながるものについては取り入れている	町内会長や公民館長、民生委員、地域包括等が集まり、2ヶ月に1回開催している。事業所の取り組み状況や地域情報等について話し合い、意見を仰いでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所の実情を報告や相談して適切な対応を導いていただいている	分からない事や相談したい事があれば、本社を通じて連絡・対応している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を設置し、職員の指導や意識確認を定期的に行っている	3ヶ月に1回、身体拘束防止委員会を開いている。また、マニュアルを整備し、年3回拘束に関するDVDや市の資料を基に勉強会を開いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待に関する研修を行い意識付けを心がけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に権利擁護に関する研修を行い、理解を深めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に事業所ですることとできない事を伝えている。契約改定の時は文章にて家族に伝え納得を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	個別のケアマニュアルを作成しケアの参考、対応が出来るようにしている。苦情は管理者に連絡し対応している	利用者は日常生活の中から、家族は面会時や電話を通じて意見や要望を聞き取っている。家族とは信頼関係が築けており、意見等は出来る限り運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の時や業務中に管理者から声をかけ個別に意見が言える配慮をしている	年2回、個別目標を基に面談を行っている。職員から出た意見や提案は、食事面等に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則はいつでも見れる場所にある。定期的な健康診断を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修予定に基づき、内部研修を行ったり、外部研修に参加した職員は全体会議で報告している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加し、情報を得たり意見交換することでサービスや業務につなげている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前に本人から情報を聞き取り、安心して生活が始められるように配慮している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていることや意向を聞き、不安なくサービス導入できるようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面接は必ず行っている。施設見学もしていただいている。相談内容はきちんとした返事が出来るようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様に寄り添い、感情を共有し支えあう関係作りをしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方には随時、情報提供を行い、問題発生時には意向を確認し対応している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人の面会を受け入れている。贈り物のあったときは職員が連絡をし利用者様にも話をしていただいている	家族と一緒に美容院(2ヶ月に一回)に行ったり、年末年始に帰省したりするなど、個々の生活習慣を尊重している。また、以前住んでいた場所へドライブに行ったり、事業所の電話を繋いだりして、馴染みの関係が途切れない様に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールの席は相性のよい方同士になるようにしている。トラブル時には職員が間に入り両者が悪者にならないようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も生活情報を関係者にサマリーとして伝え、不安なく新しい環境で生活できるように対応している		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族から得た情報を参考にして、出来る限り希望や喜びを持ってもらえる努力をしている	日常生活の中で声かけし、把握している。困難な場合は、家族に相談したり、利用者の表情や動作等から確認したりして、暮らしの希望等が叶えられる様、前向きに取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴を聞き、関わりの参考にしている。家族以外の方の面会の際にも情報収集している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの現状の把握に努め、医師や看護師の指示をあわせて個々の過ごし方を決めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	観察をしっかり行い、計画作成者を中心にカンファレンスをして介護計画の見直しもしている	家族や主治医、関係者の意見や提案が反映されたケアプランであり、モニタリングはケアマネジャーが行い、変化があればその都度、見直ししている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化も個人記録に記載して情報共有している。気づきがあれば、その都度カンファレンスを開きサービスの見直しをするようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の安全と安心を最優先に考えながら出来る限りニーズに沿った対応をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源との関わりが少ないため、協働とまでいっていないので課題である		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	常に利用者の身体状況を観察し異常があれば速やかに医師や家族に連絡し対応している	利用者・家族の希望に合わせて対応しており、24時間体制のもと、看護師が中心となり、主治医と連携を図りながら適切な医療を提供している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化等は速やかに看護師に報告し指示をもらい適切な対応ができるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は病院関係者や家族から情報収集を行い、早期の退院に向けて話しをしている。相談も出来やすい環境に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にできることできないことを説明しその段階に応じて家族に情報提供している	入居時、看取りの指針をもとに出きる事・出来ない事を説明し、利用者・家族から同意を得ている。状態が変化した時はその都度、管理者が状況等を説明し、最終的には主治医から家族に説明を行っている。	看取りの勉強会の実施に期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急隊員への情報提供書を作成している。個別の対応が出来るようにしている。定期的な研修で実践している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施したり研修を通して職員に周知している	年2回夜間想定のもを行う避難訓練の他、水害を想定した訓練も行っている。消防署の立会いもあり、相談したりアドバイスを貰ったりしている。	緊急連絡網を活用した訓練と利用者の参加に期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重するために言葉掛けや対応を丁寧に行っている	トイレの声かけや居室内でのオムツ交換等、利用者の誇りやプライバシーに配慮しながら言葉かけや対応をしている。また、同性介助にも取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いに寄り添い、自己決定できるような言葉かけを行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一定の時刻は決めているが個々のリズムに合わせた対応をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪は利用者様本人にといてもらい納得の髪型にしている。2ヶ月に1回は訪問散髪している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の献立をお伝えして食事内容を知ってもらい楽しみにしてもらっている。食後のおぼん拭きを手伝ってもらっている	毎月1回、利用者の好物(刺身や茶碗蒸し、ちらし寿司等)を提供したり、行事食を提供したりして、食事が楽しくなる様に工夫している。また、年2～3回各ユニット毎で外食に出かけたり、家族と一緒に外食を楽しんだりしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師や家族とも連携を図り本人の意向も踏まえながら提供量を決めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアをおこなっている。必要な利用者には訪問歯科を依頼している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的なトイレ誘導を行い排泄していただいている。食前、食後には声かけ、誘導している	利用者の排泄パターンに合わせてトイレ誘導しており、その成果が失敗やパット数の減少に繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に水分摂取していただいている。下剤服用時はしっかり水分摂取できるようにしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の体調や気分に合わせて、時間を調整している。湯加減や利用者の要望はできる限り対応し気持ちよく入浴できるような努力はしている	週2～3回の入浴を基本とし、利用者が希望すれば毎日の入浴も可能である。入浴剤を使用したり、季節湯を提供したりして入浴を楽しんでいる。また、利用者の状態に合わせてシャワー浴や足浴にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の身体状況に応じて、ベットで休んでいただく時間を設けている。夜間眠れない時などは話をして落ち着いてもらっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容の変更時には情報共有し理解している。誤薬予防のため、服薬前のダブルチェックも行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を活かして無理のないようにしていただいている。得意なことは役割としていただいている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩や玄関先で日光浴するなど気分転換できるようにしている。家族にも協力していただき、積極的に外出できるように心がけている	日常的に玄関先で日光浴やお茶を楽しんでいる。また、隣の厨房へ食事を取りに行ったり、自販機にジュースを買いに行ったりしている。家族と一緒に散歩やドライブ、墓参りに出かける利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金を所持されてる人はいないが、欲しいものなどを聞いて家族と相談し、できる限り希望を叶えるような努力はしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話は居室で話しをしていただいている。手紙等があれば連絡して話しをしてもらっている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには季節に合わせた飾り物をしている。利用者の作った作品を飾っている。特に室温管理については利用者に声掛けしながらこまめに調節している	利用者の目線に合わせて絵を掲示したり、季節に合わせて壁飾りを変えたりするなど、利用者が居心地良く過ごせる様に配慮している。また、利用者同士の相性を見ながら、机や席の配置を工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでの席は相性を考慮して座っていただいている。居室ではゆっくりできるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族との写真や思い出の装飾品を置いている	好きな俳優の写真を貼ったり、馴染みの布団を持ち込んだり、利用者が作成したぬり絵やカレンダーを掲示したりするなど、利用者の趣味嗜好や生活習慣に合った居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行する場所は広くして安全に動けるようにしている。ご自分で好きなように生活できるようにしている		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372700488		
法人名	有限会社ライフネット		
事業所名	グループホームももたろう (南ユニット)		
所在地	岡山県倉敷市船穂町船穂880-2		
自己評価作成日	令和元年 5 月 20 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3372700488-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3372700488-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	令和元 年 6 月 4 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の思いや生活習慣を大切にし、ご家族や医療機関との報告、連絡、相談をこまめに行うことで、心穏やかに過ごしていただけるような体制も整っている。利用者様の楽しみや季節を感じていただけるようなレクリエーション企画も毎月行っている。職員に対しては毎月の職員会議後に、介護の知識や技術、避難訓練など介護現場に必要な研修を行っている。ひと月に2回までの「希望休制度」を取り入れており、他職員に負担をかけず気兼ねなく休めることができる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

落ち着いた雰囲気の中、相性の良い者同士でテレビを観たり、会話をしたりするなど、ゆったりとした時間が流れている。家族の来訪に合わせて外出する機会が増えてきており、生活意欲の向上に繋がっている。また、各ユニット毎で外食や外出支援に取り組んでおり、お互いに助け合いながら、利用者の希望や要望に沿えられるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月1回の全体会議の時に参加職員全員で社訓を読むことで理念の共有実践をしている	玄関と相談室に理念を掲示すると共に、全体会議後の研修の中で周知している。新人職員はオリエンテーションの中で説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域活動に参加する事はあまり行っていない	地域のお祭りで神輿が来たり、中学生の職場見学や高校生の実習を受入れたりするなど、地域との交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高校生の実習を受け入れている。スタッフが見守り、意思疎通を一緒に行き、不安なく過ごしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用状況、行事の報告をして通信をみてもらい情報共有に努めている	町内会長や公民館長、民生委員、地域包括等が集まり、2ヶ月に1回開催している。事業所の取り組み状況や地域情報等について話し合い、意見を仰いでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所の実情を報告や相談して適切な対応を導いていただいている	分からない事や相談したい事があれば、本社を通じて連絡・対応している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないように職員で話しをして理解してケアを行うようにしている	3ヶ月に1回、身体拘束防止委員会を開いている。また、マニュアルを整備し、年3回拘束に関するDVDや市の資料を基に勉強会を開いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待に関する研修を行い意識付けを心がけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に権利擁護に関する研修を行い、理解をふかめている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に事業所のできる事とできない事を伝えている。契約改定の際は文章にて家族に伝え納得を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	個別のケアマニュアルを作成しケアの参考、対応が出来るようにしている。苦情は管理者に連絡し対応している	利用者は日常生活の中から、家族は面会時や電話を通じて意見や要望を聞き取っている。家族とは信頼関係が築けており、意見等は出来る限り運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の時や業務中に管理者から声をかけ個別に意見が言える配慮をしている	年2回、個別目標を基に面談を行っている。職員から出た意見や提案は、食事面等に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則はいつでも見れる場所にある。定期的な健康診断を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加した職員は全体会議で報告している。法人外から講師を招き研修している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡会に参加することで他事業所の方と交流、意見交換している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入時になるべく本人のそばで関わりを持ち不安の軽減するとともに家族からの助言も取り入れている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていることや意向を聞き、不安なくサービス導入できるようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面接は必ず行っている。施設見学もしていただいている。相談内容はきちんとした返事が出来るようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様に寄り添い、感情を共有し支えあう関係作りをしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方には随時、情報提供を行い、問題発生時には意向を確認し対応している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人の面会を受け入れている。贈り物のあったときは職員が連絡をし利用者様にも話しをしていただいている	家族と一緒に美容院(2ヶ月に一回)に行ったり、年末年始に帰省したりするなど、個々の生活習慣を尊重している。また、以前住んでいた場所へドライブに行ったり、事業所の電話を繋いだりして、馴染みの関係が途切れない様に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールの席は相性のよい方同士になるようにしている。トラブル時には職員が間に入り両者が悪者にならないようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も生活情報を関係者にサマリーとしてツタエ、不安なく新しい環境で生活できるように対応している		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族から情報をもらい参考にして出来る限り希望や喜びを持ってもらえる努力をしている	日常生活の中で声かけし、把握している。困難な場合は、家族に相談したり、利用者の表情や動作等から確認したりして、暮らしの希望等が叶えられる様、前向きに取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴を聞き、関わりの参考になっている。家族以外の方の面会の際にも情報収集している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの現状の把握に努め、医師や看護師の指示をあわせて個々の過ごし方を決めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	観察をしっかり行い、変化があれば計画作成者を中心にカンファレンスをして介護計画の見直しもしている	家族や主治医、関係者の意見や提案が反映されたケアプランであり、モニタリングはケアマネジャーが行い、変化があればその都度、見直ししている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化も個人記録に記載して情報共有している。気づきがあればその都度、話しをしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の安全と安心を最優先に考えながら出来る限りニーズに沿った対応をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源との関わりが少ないため、協働とまでいっていないので課題である		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	常に利用者の身体状況を観察し異常があれば速やかに意思や家族に連絡し対応している	利用者・家族の希望に合わせて対応しており、24時間体制のもと、看護師が中心となり、主治医と連携を図りながら適切な医療を提供している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化等は速やかに看護師に報告し指示をもらい適切な対応ができるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は病院と連携を取り、早期の退院に向けて話しをしている。相談も出来やすい環境に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にできることできないことを説明しその段階に応じて家族に情報提供している	入居時、看取りの指針をもとに出きる事・出来ない事を説明し、利用者・家族から同意を得ている。状態が変化した時はその都度、管理者が状況等を説明し、最終的には主治医から家族に説明を行っている。	看取りの勉強会の実施に期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急隊員への情報提供書を作成している。個別の対応ができるようにしている。定期的な研修で実践している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施したり研修を通して職員に周知している	年2回夜間想定のもを行う避難訓練の他、水害を想定した訓練も行っている。消防署の立会いもあり、相談したりアドバイスを貰ったりしている。	緊急連絡網を活用した訓練と利用者の参加に期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重するために言葉掛けや対応を丁寧に行っている	トイレの声かけや居室内でのオムツ交換等、利用者の誇りやプライバシーに配慮しながら言葉かけや対応をしている。また、同性介助にも取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	しっかり言葉かけを行い、自己決定ができるように対応している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一定の時刻は決めているが個々のリズムに合わせた対応をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪は利用者様本人にお願いし納得の髪型にしてもらっている。2ヶ月に1回は訪問散髪している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の献立をお伝えして食事内容を知ってもらい楽しみにしてもらっている。食後のおぼん拭きを手伝ってもらっている	毎月1回、利用者の好物(刺身や茶碗蒸し、ちらし寿司等)を提供したり、行事食を提供したりして、食事が楽しくなる様に工夫している。また、年2～3回各ユニット毎で外食に出かけたり、家族と一緒に外食を楽しんだりしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師や家族とも連携を図り本人の意向も踏まえながら提供量を決めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアをおこなっている。異常時には訪問歯科を利用している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的なトイレ誘導を行い排泄していただいている。食前、食後には声かけ、誘導している	利用者の排泄パターンに合わせてトイレ誘導しており、その成果が失敗やパット数の減少に繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に水分摂取していただいている。下剤服用時はしっかり水分摂取できるようにしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の体調にあわせ、時間を調整している。気持ちよく入浴できるような声かけをしている	週2～3回の入浴を基本とし、利用者が希望すれば毎日の入浴も可能である。入浴剤を使用したり、季節湯を提供したりして入浴を楽しんでいる。また、利用者の状態に合わせてシャワー浴や足浴にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の身体状況に応じて、ベットで休んでいただく時間を設けている。夜間眠れない時などは話をして落ち着いてもらっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容の変更時には情報共有し理解している。服薬がきちんとできるよう見守り介助している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を活かしてできることを無理のないようにしていただいている。得意なことは役割としていただいている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	初詣や花見に行き季節を感じて頂いたり、年に数回外食へ行っている。盆や年末は外泊されるかたもいる	日常的に玄関先で日光浴やお茶を楽しんでいる。また、隣の厨房へ食事を取りに行ったり、自販機にジュースを買いに行ったりしている。家族と一緒に散歩やドライブ、墓参りに出かける利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設の自動販売機で飲み物を買うなど、希望のあるときに使用していただいている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人から電話は居室で話しをしていただいている。手紙等があれば連絡して話しをしてもらっている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレや洗面所に「使用中」のプレートを利用しプライバシーを保護している。	利用者の目線に合わせて絵を掲示したり、季節に合わせて壁飾りを変えたりするなど、利用者が居心地良く過ごせる様に配慮している。また、利用者同士の相性を見ながら、机や席の配置を工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでの席は相性を考慮して座っていただいている。居室ではゆっくりできるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族との写真や思い出の装飾品を置いている	好きな俳優の写真を貼ったり、馴染みの布団を持ち込んだり、利用者が作成したぬり絵やカレンダーを掲示したりするなど、利用者の趣味嗜好や生活習慣に合った居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行する場所は広くして安全に動けるようにしている。トイレは迷わないように大きな文字で看板をつけている		